

| 科目番号 | 53018 | 分類 | 専門科目 看護基盤科学領域 | 履修者 | 看護科学コース | 学年 | |
|---|--|----|------------------|-----|-------------|------------------------|------------|
| 科目名 | 臨床看護学演習Ⅱ (Practice of Clinical Nursing Sciences 2) | | | | | 2 | |
| | | | | | | 配当シスター | |
| | | | | | | 通年 | |
| 担当者 | 看護基盤科学・臨床看護学・応用看護学担当教員 | 区分 | 選択 | 単位 | 2 | 時間数 | 60 |
| 授業の概要および目標 | | | | | 学位授与の方針との関連 | | |
| <p>【概要】 全ての専門科目(看護基盤学、臨床看護学、応用看護学)の担当教員とのチュートリアル形式の Problem-Based Learning の演習を通して、客観的事実に基づいた課題を明確にしたうえで、研究遂行のための科学的視点に立った論理的思考力および実践力を修得する。看護学・医学のみならずヒトの健康事象に関する課題を俯瞰できる視点を育成するために、自分の所属領域に限らず全ての専門領域(看護基盤学領域、臨床看護学領域、応用看護学領域)の教員が担当することとする。</p> <p>【目標】 以下の能力を身につける。 ①自然科学の視点に立って evidence を収集できる能力、 ②ヒトの健康事象を対象に再現性のある研究を遂行できる能力、 ③論文作成能力、 ④国際協力・支援に係る実践力</p> | | | | | ○ | 1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力 | |
| ○ | 2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力 | | | | | | |
| ○ | 3. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力 | | | | | | |
| ○ | 4. 看護管理者として、臨床現場においてリーダーシップをとりながら、エビデンスに基づく看護マネジメントができる能力 | | | | | | |
| ○ | 5. 実践を行いながら学部学生の臨床実習を指導できる能力 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | | |
| 回 | 内 容 | | | | | | 担当教員 |
| 第1～3回 | 看護基盤学で取り上げる課題(1Problem/領域)を明確にする | | | | | | 看護基盤科学担当教員 |
| 第4～6回 | 看護基盤学で取り上げた課題を解決するための、具体的な方策を立案する。 | | | | | | |
| 第7～10回 | 立案した方策を実現するための evidence の収集およびそれらの解釈に必要な具体的なさまざまな手法を習得する。 | | | | | | |
| 第11～13回 | 臨床看護学で取り上げる課題(1Problem/領域)を明確にする | | | | | | 臨床看護学担当教員 |
| 第14～16回 | 臨床看護学で取り上げた課題を解決するための、具体的な方策を立案する。 | | | | | | |
| 第17～20回 | 立案した方策を実現するための evidence の収集およびそれらの解釈に必要な具体的なさまざまな手法を習得する。 | | | | | | |
| 第21～23回 | 応用看護学で取り上げる課題(1Problem/領域)を明確にする | | | | | | 応用看護学担当教員 |
| 第24～26回 | 応用看護学で取り上げた課題を解決するための、具体的な方策を立案する。 | | | | | | |
| 第27～30回 | 立案した方策を実現するための evidence の収集およびそれらの解釈に必要な具体的なさまざまな手法を習得する。 | | | | | | |
| 事前・事後学習 | 自分の研究テーマに即した原著論文を2-3編熟読し、発表できるように準備しておく 事前学習は各1時間、事後学習は各2時間とする。 | | | | | | |
| 評価の方法 | 出席・ディスカッションへの参加状況で評価する。 フィードバックは適宜行う。 | | | | | | |
| 参考図書・資料等 | | | | | | | |
| 備考 | オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 | | | | | | |